

【研究主題】

「未来社会の創り手となる人にも自然にも優しい児童の育成」 ～Gyoko's SDGsを通して～



はじめに

校長 新井 裕

私たちは、常によりよい授業を目指し授業改善を図る必要があります。学習指導要領では、「知・徳・体」にわたる「生きる力」を子供たちに育むため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有し、授業の創意工夫を求めています。児童に生きて働く知識・技能を習得させ、どのような状況でも対応できる思考力、判断力、表現力を育成し、これからの人生や社会に活かそうとする学びに向かう力と人間性等の涵養を図ることが学校の使命です。また、世界的規模で問題となっている地球温暖化をはじめとする諸問題に対する警鐘が叫ばれ、その課題を克服する人材の育成が急務となり、学校は未来社会の担い手を育てることが持続可能な社会の実現を目指す上では必須となっています。

このような中で、本校は、児童の学力の向上に資することを目的として校内研究に取り組み、今年度コロナ禍ではあってもESDに基づいたSDGsを柱とした研究を進めることとし、研究主題を「未来社会の創り手となる人にも自然にも優しい児童の育成～GSDGsを通して～」として、手探りの中、研究の端緒を開きました。研究授業では、スクールGIGA構想の下、全校児童一人1台のタブレットパソコンの有効活用を図りつつ児童の学習意欲を高め、道徳とSDGsとの接点を見出すことに心を砕き研究を行いました。

教師の指導力が最も発揮される場面は日々の授業であり、児童のつまづきに手を施すことができる者は、児童と向き合う教師です。教師が質の高い授業を実践することにより児童の学習意欲は高まり、理解が深まり、学力が定着します。そのためには、教師は、その資質能力に加え、積極的に得意分野を開拓し、広い視野や豊かな感性で教育に携わる能力を身に付けることが求められています。

私たちは、これからも仰高小学校のレガシーを堅持しつつ確かな授業力を身に付けることを目的とし、自らの資質の向上に取り組み、困難な課題に挑む集団でありたいと考えています。そして、児童一人ひとりの個性や能力を伸ばす力を常に保ち、指導方法をさらに改善して授業力を高め、児童の学びを深めて参りますのでこれからも御指導を賜りますようお願いいたします。

今年、本校の研究に際し、今後の方向性を含め多くのご示唆を賜りました麗澤大学大学院学校教育研究科准教授 鈴木明雄先生をはじめ豊島区並びに豊島区教育委員会の皆様に深く感謝申し上げます御礼とさせていただきます。



仰高小学校 SDGs

	特別の教科 道徳	総合的な学習の時間	特別活動	社会／生活	理科／生活
第1学年	「がっこうだいすき」 「なかよくね」 「あさがお」 「にほんのあそび」 「せかいのこどもたち」		「ユニセフ学習会・ユニセフ募金」	「じぶんでできるよ」	「きせつとあそぼうーはるからなつー」 「きせつとあそぼうーあきー」 「きせつとあそぼうーふゆー」 「きれいなはなをさかしたい」 「生きものとなかよくなるう」
第2学年	「ぶらんこ」 「ぐみの木と小鳥」 「かえってきたホテル」 「およげないりすさん」 「こんなときどうするかな」 「雨ふり」		「ユニセフ学習会・ユニセフ募金」	「町探検ー区民ひろば仰高ー地蔵通り商店街」	「きせつのへんかとくらし」 「駅前花壇にこにこ大作戦」 「緑のカーテンを作ろう」 「ぐんぐんそだてみんなのやさしい」 「生きものはかせになろう」 「かんきょうのことを考えよう」
第3学年	「ヤゴ救出大作戦」 「大切なものは何ですか」 「まわりを見つめて」 「マサラップ」 「みんながくらしやすい町」	「ヤゴ救出大作戦」 「発見!仕事の工夫」 「もっと知ろう わたしたちのまち」 「オリンピック・パラリンピックについて調べよう」	「ユニセフ学習会・ユニセフ募金」	「わたしたちの住む町」 「わたしたちのくらしとまちではたらく人びと」 「安全なくらし」 「豊島区のうつりかわり」	「しぜんのかんさつ」 「こん虫を調べよう」
第4学年	「世界で一つだけの花」 「『思いやり』って」 「ひとりぼっちのYちゃん」 「いのちをつなぐ絆」 「思いやりのかたり」 「わたしの大切なもの」 「みんながってみんないい」	「共に生きるーだれもが住みやすい社会へー」 「オリンピック・パラリンピックについて調べよう」	「ユニセフ学習会・ユニセフ募金」	「水はどこから」 「ごみの処理と利用」 「水害からくらしを守る」 「とどけよう命の水」 「染め物のさかんな新宿区」 「世界とつながる大田区」 「ゆたかな自然を守り生かす小笠原村」	「季節と生き物の様子」 「暑い季節」 「すずしくなると」 「寒さの中でも」
第5学年	「どうすればいいのだろう」 「一ふみ十年」 「同じでちがう」 「だれもが幸せになれる社会を」 「小さな国際親善大使」 「マークが伝えるもの」	「仰高ビオトープと環境保護」 「オリンピック・パラリンピックについて調べよう」	「ユニセフ学習会・ユニセフ募金」	「これからの食料生産」 「日本の貿易とこれからの工業生産」 「情報を生かして発展する産業」 「環境とわたしたちのくらし」 「森林とわたしたちのくらし」 「自然災害から人々を守る」	「種子の発芽と成長」 「魚のたんじょう」 「実や種子のできかた」
第6学年	「世界人権宣言から学ぼう」 「海のゆりかごーアマモの再生」 「命の旅」 「★コラム★自然と共に持続可能な社会とは?」 「私には夢がある」 「エルトワールル号ー友好の始まり」	「GSDGsを実行しよう」	「ユニセフ学習会・ユニセフ募金」	「国際連合と日本の役割」	「人と環境」

年間指導計画

	国語	算数	家庭	体育	外国語活動	音楽	図画工作
第1学年		「いくつといくつ」					
第2学年		「たし算の筆算」 「ひき算の筆算」					「ピオトープのせかい」
第3学年	「仕事のくふう、見つけたよ」 「ちいちゃんのかげおくり」 「すがたをかえる大豆」 「ありの行列」	「三角形と角」		保健「毎日の生活と健康」	「Hello! あいさつをして友達になろう」 「ALPHABET アルファベットとなかよし」		「綿毛さんのぼうけん」
第4学年	「ランドセルは海をこえて」 「ごんぎつね」 「ウナギのなぞを追って」	「プログラミングを体験しよう」		保健「体の発育・発達」	「Hello, world」	「せんりつの重なりを感じ取ろう」	「ひみつのすみか」
第5学年	「みんなが過ごしやすいまちへ」 「固有種が教えてくれること」	「プログラミングを体験しよう」 「正多角形と円周の長さ」		保健「心の健康」	「Check Your Steps1」 「Check Your Steps2」 「Check Your Steps3」	「音の重なりを感じ取ろう」	「ジャングルの生命」 「海からのおくりものの」 「メッセージを持ち歩く」
第6学年	「私たちにできること」	「プログラミングを体験しよう」	「持続可能な社会を生きる」	保健「病気の予防」	「We all live on the Earth.」	「音楽で思いを伝えよう」	「心の植物図鑑」

研究構想図

【国・都・区の施策】

- 学習指導要領実施
- 持続可能な開発目標(SDGs)の採択
- 持続可能な開発のための教育(ESD)の推進
- 豊島区教育ビジョン 2019 の推進

【校訓】

豊かに学び
美しい心と才能をみがき
共に明日を創っていこう
進め 登れ 遠く 高く

【児童の実態】

- 自然に親しみをもっている児童が多い。
- 友達を認め合える児童が多い。
- 思いやりに欠けた言葉遣いをする。
- 持ち物の管理意識に欠ける。

研究主題

未来社会の創り手となる人にも自然にも優しい児童の育成
～Gyoko's SDGsを通して～

主題設定の理由

- 学習指導要領の理念に基づき、各教科等において、持続可能な社会の創り手の育成が必要だと考えるから。
- ISSを基盤とし、身の回りの諸問題を解決するための判断力や実践力を育成することにより、自他を尊ぶ態度が育まれると考えるから。

目指す児童像

低学年

身の回りにある問題に気づき、
自分ごととして解決策を考え、取
り組むことができる子

中学年

現代社会の諸問題に気づき、
自分ごととしてとらえ、解決策を
考えて取り組むことができる子

高学年

現代社会における諸問題を自
分ごととしてとらえ、様々な立場
に立って解決策を考えて取り組
むことができる子

研究仮説

身の回りにある現代社会の諸問題について、身近な資料やデータを基に問題解決型の授業を展開することによって、自分事として考え、解決するための判断力や実践しようとする態度を育成することができる

研究主題に迫るための手立て

各教科・総合的な学習の時間・特別の教科 道徳

環境教育

- ・緑のカーテン
- ・クスノキプロジェクト
(ピオトープ)
- ・花いっぱい運動
- ・駅前花壇

1

地域教材の活用

- ・果鴨地蔵通り商店街
- ・駅前商店街
- ・真性寺
- ・高岩寺

2

情報教育・外国語 の充実

- ・ICTの有効活用
- ・プログラミング教育
- ・ALTとの連携

3

体力向上

- ・ピースフルタイム
- ・持久走・GAP
- ・オリ・パラ教育
- ・長縄・短縄
- ・保健

4

温かい心の育成

- ・なかよし班活動
- ・サークルタイム
- ・あいさつ運動
- ・誕生日給食
- ・ISS集会

5

インターナショナルセーフスクール(ISS)認証校としての取組の継続

教員の指導力向上による各教科教育の充実

GSDGs 今年度の取り組み

温かい心

- ・言葉に思いやりをもとう
- ・自分らしさや友達らしさを認め合おう

体力向上

- ・たくさん体を動かし、元気な体をつくろう
- ・必要な分だけ大切に使おう

環境

- ・生き物を大切にし、自然を守ろう
- ・心も体も健康に過ごそう

GSDGs
目標
キャラクター



かんきょうライオンくん



はな



GSDGsレンジャー



緑風風



仰高小学校独自の SDGs の
目標やロゴを作成しました。
親しみをもたせるために、児童か
らキャラクターを募集しました。



第1学年 「生き物となかよくなろう」

学校にいる生き物を見付け、興味をもった生き物について調べました。「いきものマップ」を作ったり、調べたことを発表したりすることで、生き物に親しみを持ち、大切に作る気持ちが芽生えました。

第2学年 「緑のカーテン」

プランターにアサガオの種を植えました。支柱やネットをつたってつるや葉が伸びていき、立派なカーテンが完成しました。特に1階は日陰になり涼しく過ごしました。



第3学年 「トンボいかだ作戦」

校庭に飛んでいるギンヤンマが産卵できるように、草とペットボトルを使って「いかだ」を作りました。浮かべた瞬間、ギンヤンマが止まり、産卵をし始めました。

第4学年 「共に生きる」

図書館、家など自分たちのオリジナルの「ユニバーサルデザインな〇〇」を考えました。だれもが使いやすい施設の工夫を取り入れることができました。

第6学年 「GSDGsを実行しよう」

SDGsについて学び、学校で取り組めることを考えて、提案文書を書きました。その中から、自分たちでできることを選び、GSDGsを実行していきました。

5年 特別の教科 道徳「一ふみ十年」

【12月 1時間】



ねらい

高山植物の育ち方やそれを守り続けてきた人々の話を聞き、気持ちを改める勇の姿を通して、自然と人はどう関わっていくのがよいかを自分事として考えさせ、人間と自然や動植物との共存の在り方に関心をもち、自然環境を大切にしていこうとする実践意欲と態度を育てる。

問題を捉える

- ・自分の生活を振り返り、自然の素晴らしさや偉大さについて考える。
- ・事前にとったアンケートをもとに、自然との関わりについて振り返る。



自分で考える

- ・「一ふみ十年」という言葉の意味を知り、自然の大切さや儚さについて考える。
- ・なぜ、自然が大切なのか話し合う。



学び合う

- ・自然と人はどのように関わっていくとよいのか考える。
- ・考えたことを基に、自然を大切にするために、今の自分にできることを考える。
- ・考えたことをオクリンク※で交流し、自分にもできそうなことや自分にはできなそうなおことを出し合い、自分の考えを広げる。

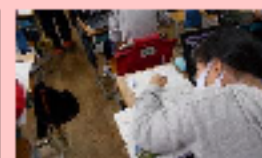


振り返る

- ・本時の学習から、今までの自分の生活を振り返る。
- ・説話を通して、小さな一歩を積み重ねれば、大きな一歩になるということに気づき、実践意欲を高める。

※オクリンク

タブレット学習オールインワンソフト、ミライシードの中にある授業支援ソフト。タブレットを介して意見共有ができるため、自分の思考を深めたり、全体で考えを練り上げたりすることができる。



成果と課題

- 自分の意見だけではなく、友達の見解から、自分にできるかどうかを考えさせたことで、自分事として捉えやすかった。また、一人ですべてのことをする必要はなく、それぞれが自分にできる一歩を踏み出すことが大事だという考えにつながりやすかった。
- ・校庭のクスノキやビオトープなど、児童にとって、もっと身近な自然を提示した方が、自分事として捉えやすく実践意欲に結び付けやすかった。

5年 総合的な学習の時間「仰高ビオトープと環境保護」

【9月～3月 全24時間】



目標

里地里山の理念をもった本校ビオトープと豊島区のかつての豊かな自然を再現したとしまの森に共通する都市における自然との共生と自然保護について調べ、国土の保全や地球規模の環境保護の必要性について考える。

課題を設定する

- ・ビオトープの役割について知る。
- ・仰高ビオトープに行って気付いたことを伝え合う。
- ・仰高ビオトープを生き物にとってよりよい場所にするためにできることを話し合い、課題を設定する。



追究する

- ・設定した課題についてグループごとに方策を調べ、活動方法を考える。
- ・話し合った活動方法を学級で伝え、学級全体で活動計画を話し合う。



考え表現する

- ・グループごとに活動をする。
- ・学習を振り返り、考えたことやさらに行いたいことを話し合う。



関わる

- ・活動を引き継いでもらうために、4年生に1年間の活動について伝える準備をする。
- ・4年生に伝える。
- ・学習全体を振り返り、人にも自然にも優しい学校にするために、今後続けていきたいこと、行いたいことを考える。



成果と課題

- ビオトープの役割を伝えたことで、豊島区に昔からいる生物が住みやすい環境にすることを視点に活動を行うことができた。
- 自分たちで考えた方法で取り組んだことと、教師の助言を必要最低限にとどめたことで、意欲的に活動した。
- ・活動を1学期から始めることで、季節による生物の変化がより感じられるようにしていく必要がある。
- ・活動にかかる時間に差が生じてしまうため、授業時間外も含めた活動計画を立てさせる必要がある。

成 果 と 課 題

成果

- ピオトープについて学習したことを掲示板で発信したことによって他学年もピオトープに興味をもち、生き物や植物など身の回りの自然を大切にしようとする意欲が高まった。
- 各教室に SDGs の 17 の目標のロゴを掲示するなど校内環境を整えたことにより、SDGs への意識が高まった。
- これまで学んできた中にも SDGs につながっている内容があることに気付き、学びの深化が図られた。

課題

- 本校児童は、各教科における知識を有しているが、今後、自分事として捉えさせ、身近なことのできることを行っていくとする実践意欲を育てる。
- 教員は、教科と SDGs の関係性に着目し、系統的・計画的な実践を行う。

ご 指 導 い た だ い た 先 生 方

麗澤大学大学院学校教育研究科道德教育専攻准教授
豊島区教育委員会 学校教育部指導課指導主事

鈴木 明雄 様
一木 喜美 様

研 究 に 携 わ っ た 教 職 員

◎:研究主任 ○:研究推進委員

校 長	新井 裕	副 校 長	日向野 修二		
1 年 1 組	小川 奈緒子	◎5 年 1 組	高倉 彩	理科講師	小山 裕司
1 年 2 組	内藤 陽徳	5 年 2 組	鈴木 健太郎アール	算数少人数	中川 貴
○2 年 1 組	新保 沙織	6 年 1 組	樋口 隆宏	養 護	八木 久美子
2 年 2 組	金井 元樹	○6 年 2 組	関口 恭平	事 務	砂賀 喜久江
3 年 1 組	石井 歩	音 楽	青木 結香子	栄 養 士	加藤 暁子
○3 年 2 組	秋元 里菜	図 工	竹内 由希子	司 書	淀野 由美子
4 年 1 組	佐藤 花子	日 本 語	安岡 淑光		
4 年 2 組	長澤 凜奈	特別支援	秋山 隆		

お わ り に

2ヶ月の休校からスタートした今年度は、子供たちの学校生活にも大きな影響を及ぼしました。感染予防対策を十分に整えた上で行う教育活動は、様々な制限が設けられ、学習スタイルも大幅に変わりました。そのような中でも、未来社会の担い手となる子供たちは、身近な問題から課題を決め、その解決について協働的に学ぶことで、SDGs の持続可能な目標へと結びつける意識を高めることができました。

今後も継続して実践的な研究を進め、更に人にも自然にも優しい児童の育成を目指して参ります。

結びになりますが、本研究を推進するにあたり、丁寧なご指導を賜りました講師の先生方に、厚く御礼申し上げます。

副校長 日向野 修二